

「教員養成に資する」 ソーシャルクリニックの試み

北海道教育大学函館校 キャンパス長
五十嵐 靖夫

皆様におかれましては、日頃より函館校の教育研究活動並びに地域協働事業にご理解とご支援を賜りまして、ありがとうございます。

さて、私たちの北海道教育大学は、札幌、旭川、釧路、函館、岩見沢に5つのキャンパスを有し、それぞれが北海道の地域に根ざした教育研究活動を行っております。とりわけ函館校においては、2014年に教育学部の下に「国際地域学科」を設置し、国際的視野と教育マインドをもって地域づくりに寄与する人材の育成に取り組んでおります。その地域との連携を推進する中核を担う部署として、函館校では「地域協働推進センター」を位置づけております。

地域における活動を推進するなかで、地域の課題を適切に捉え、解決策を検討し、解決へ向けて試行・実践する一連のプロセスを地域と大学との協働によって取り組んでいく、いわば地域課題の診療過程を「ソーシャルクリニック（SC）」と名づけ、これまで江差町、知内町、函館市をはじめとする道南の各地域において、さまざまな活動を展開してまいりました。また、一昨年から開始した「巡回型サテライト・オフィス事業」では、おかげさまで今年度、道南のすべての市町と各地域の課題について情報交換の機会をもつことができました。

現在、日本の各地域が抱える課題は多様であり、加えて近年の自然災害の発生やコロナ禍による影響は甚大です。まさに、地域のもてる力をこれまで以上に解放し、新たなコラボレーションを模索するなど、その解決に向けて皆が知恵を絞らなければならない時期にあるといえましょう。函館校のソーシャルクリニック事業は、大学が有する知的・専門的知見を活用し、そうした取り組みをささやかながら支援する力になれるのではないかと考えております。

他方、こうしたソーシャルクリニック事業は、北海道における教員養成にも少なからず好影響を与えることが期待されています。地域の課題解決に、学校や子どもたちの果たす役割は大きく、またそうした取り組みが学校教育にも新しい風を吹き込みます。これからの学校づくりに、地域とのつながりと教育マインドをもった地域づくりは欠かせません。まさに学校づくり・人づくりはまちづくりともいえるでしょう。

今後とも、地域協働推進センターの活動とソーシャルクリニック事業をより一層発展させることで、地域の未来とともに考え諸課題の解決に取り組むとともに、地域とともに学校づくり・教員養成にも励んでまいりたいと考えております。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

2021年3月